

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)内スラリーの移替え作業  
における安全対策等に係る面談

2. 日時：令和3年7月21日(水) 16時10分～18時30分

3. 場所：原子力規制庁 18階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、久川係員

大辻室長補佐、知見主任安全審査官、

吉田技術参与、近藤技術参与、平山技術参与、鈴木技術参与、林技術参与

(テレビ会議システムによる出席)

福島第一原子力規制事務所(テレビ会議システムによる出席)

小林所長、木村副所長、黒川原子力運転検査官、木村原子力運転検査官、

松本原子力運転検査官、坂本原子力運転検査官、坂中原子力防災専門官

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 担当1名(テレビ会議システムによる出席)

福島第一原子力発電所 汚染水対策プログラム部 担当5名

(テレビ会議システムによる出席)

建設・運用・保守センター 機械部 担当1名

(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、高性能容器(以下「HIC」という。)内スラリーの移替え作業について、資料に基づき以下の説明があった。

➤ HIC内スラリーの移替え作業の概要について

➤ HIC内スラリーの移替え作業における安全対策について

- 原子力規制庁は、上記の説明を受けて、

➤ まず、先行して実施する低線量HIC内のスラリー移替え作業について、SEDSを用いた移替え作業までを実施し、HIC内のスラリーの沈殿度合いの把握や上蓋開放時の線量測定等を行った上で、HIC底部に残ったスラリーの取扱いや、積算吸収線量が5,000kGyを超過したHIC内のスラリー移替え作業及びその安全対策について検討すること。

➤ 移替え作業については、内部被ばく量が記録レベル(2mSv)を超過しないように警報設定値を定めて管理することとしているが、ダストサンプルではダスト濃度を連続監視することができないため、改めてダスト濃度の監視方法について検討すること。

等を求めた。

6. その他

資料：

➤ HICスラリー移替え作業の実施と安全対策